

お知らせ

<2010年1月1日から2010年12月31日までに川崎医科大学附属病院呼吸器外科において
原発性肺癌に対して手術を受けられた患者さんへ>

研究課題名：肺門部浸潤肺癌の治療成績の検討

現在、原発性肺癌に対する標準治療は手術（肺葉切除）と術後補助化学療法であるとされています。このうち、「肺門部浸潤肺癌」といわれるタイプの肺癌では、手術は肺全摘という侵襲が大きな手術が必要となることがしばしばあり、またそれらの予後は不良です。こうした場合には術前に化学療法や化学療法・放射線療法を行った後に手術を行うことで予後が改善することが報告されていますが、その有用性については十分に確立していません。

今回、2010年1月1日から2010年12月31日までに当院呼吸器外科で原発性肺癌のため手術を受けられた方のうち、手術前の画像検査などで肺全摘術が必要と考えられた原発性肺癌（非小細胞肺癌）の方を対象として、画像検査の結果や手術後の経過（合併症、呼吸機能、予後、再発部位等）を検証して、これまで行ってきた診断・治療の成績や問題点を明らかにして、今後の診療・治療の改善を図ることを目的とする研究を行っています。この研究は「瀬戸内肺がん研究会」という臨床試験グループに参加している施設と共同で行う多施設共同研究です。具体的には診療記録（カルテ）より診断・治療に関する情報を各参加施設から収集して解析を行います。遺伝子の検索は行いません。なお、この研究は川崎医科大学・同附属病院倫理委員会の審査・承認を得て行っています。

今回の研究データを将来の研究のために用いたり、他の研究機関に提供したりする可能性があります。その際には研究課題について倫理委員会の審査を再度受け承認を得て実施いたします。

研究をするために必要な資金をスポンサー（製薬会社等）から提供してもらうことにより、その結果の判断に利害が発生し、結果の判断にひずみが起こりかねない状態を利益相反状態といいます。

この研究は研究責任者の教員研究費を用いて行う研究であり、この研究を実施する関係者には大鵬薬品工業株式会社より奨学寄付金の受け入れがありますが、利益相反委員会にこの内容を申告し、適正に管理されています。なお、上記企業は、本研究課題には直接関係のない企業です。

この研究への参加を希望されない方、データの送付を希望されない方は、川崎医科大学附属病院呼吸器外科ホームページ(<http://www.kawasaki-m.ac.jp/gts/>)から電子メール(gts@med.kawasaki-m.ac.jp)、または川崎医科大学呼吸器外科学教室(直通086-462-1124)または下記研究者に連絡をお願いします。

問い合わせ先：

川崎医科大学附属病院呼吸器外科学 教授 中田 昌男

電子メール：gts@med.kawasaki-m.ac.jp

TEL：川崎医科大学病院代表(086-462-1111)

呼吸器外科実験室(内線 25519)

FAX：086-464-1124